



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2605 号 2015.8.29 発行

すでに 2 学期が始まっているところもありますが、8 月 14 日から 28 日まで読売新聞連載の「夏休みの学び」をまとめてお届けします。【kobi】

夏休みの学び（1）主体性を尊重 宿題は自由 読売新聞 2015 年 08 月 14 日  
連日の猛暑の中、子どもたちはどのように学んでいるのか。

### ◆埼玉大教育学部附属小の 児童がこれまでに 取り組んだ宿題の事例

#### 1年生

- 夏休みに頑張ったことをまとめる
- 割り箸を使った工作
- 「海の世界」の図工
- 紙コップなどを使ったけん玉作り
- 写真付き日記帳
- 写真のフレーム作り

#### 6年生

- JAXA(宇宙航空研究開発機構)を見学して、宇宙についての壁新聞を作る
- 埼玉スタジアムの芝生について実地調査をする
- 保育園を見学して、幼児の行動を観察し、冊子にする
- 世界中で愛されている絵本を調査し、世界地図にまとめる
- 算数ドリルを全ページやり遂げる
- 油絵にチャレンジする

学校の宿題に積極的に取り組んだり、海外留学やボランティアに挑戦したり。無料の学習支援を利用するケースもある。夏休み中の学びの姿を追う。

#### テーマ「祖父母宅」

7月下旬、埼玉大教育学部附属小学校（さいたま市）の5年生（10）は夏休みの宿題を何にするか、母親の恵理さん（42）に相談した。同小では、「子ども一人一人の主体性を尊重するため」、夏休みに決まった宿題を出さず、テーマや内容を自由に選ばせている。

「裁縫か料理にしようかな」と言う仁恵さんに、恵理さんが「おじいちゃんとおばあちゃんの家は？」と提案。80歳代の祖父母は今春、自宅を段差のないバリアフリーの家に建て替えた。「なるほど、そういうテーマもあるのか」と仁恵さんも同意した。

早速、近所の祖父母宅を訪ね、段差のない玄関や、手すり付きで車椅子も入れるスペースがあるトイレなどをチェック。ノートにイラストを描き、「手すりがあってこしかけたり立ったりしやすい」などとメモした。

イラストなどを清書し、近く完成させる。タイトルは「みんなが暮らしやすい家とは？」「興味のあるテーマを掘り下げられるので楽しい」と仁恵さん。毎年違うテーマに取り組み、1年生の時は菓子作りに挑戦、2年生で「おかし

のいえ」を工作し、3年生は飼っていたペットから「ウサギの大研究」、4年生は4歳の時から習っている「バレエの世界」について冊子にまとめた。

今も作品や冊子を大切に保存している。恵理さんは「自分で調べて、まとめる力がついてきた。娘の成長の証し」と喜ぶ。

#### 各校で工夫を

同小が、夏休みの宿題の内容を設定しないようになったのは約30年前から。夏休み直前に保護者会を開き、「親子で話し合い、子どもが主体的に取り組めるように考えてください」と呼びかけている。なかには「他校のようにしっかりと宿題を出して」という保護者もいる。その場合は、市販のドリルなどを提出させている。有川秀之校長は『しなげればいけない』ではなく、『何をしたいか』を考え、形にするのが重要」と強調する。

夏休みの宿題は、学校や地域によって様々だ。

東京都練馬区教委によると、4～7月分の復習用市販ドリルや、教師が作ったプリントなどを宿題として出す区立小中学校が多い。さらに小学校低学年では朝顔の観察や絵日記、高学年では自由研究や読書感想文に取り組みせる学校が目立つ。区教委の担当者は「子どもたちが夏休み中もリズム良く過ごせるようにするため」と狙いを語る。

また、地域によって同じ宿題を課している場合もある。福岡市教委によると、市立中学校全69校では、地元の出版業者が発行している5教科の1学期の復習用冊子「夏の生活」を夏休み前に生徒に配り、2学期が始まるとすぐに提出させている。「夏休みの課題テスト」を実施し、復習が身についているかどうかを確認している。

私立武蔵高等学校中学校（東京）では、夏休みの宿題が以前より増えているという。岸田生馬広報委員長は「塾に手取り足取り指導してもらうのに慣れ、何をしたいか、自分ではわからない生徒が多い」と話している。

### 挑戦させる機会に

文部科学省教育課程課によると、小中高校で指導する内容を定めた学習指導要領には宿題についての規定はなく、夏休みにどのような宿題を出すかは各学校に任せられている。宿題を成績に反映させるかどうかは「各学校の判断による」という。

流通経済大の小松郁夫教授（教育経営学）は「日本では戦前から復習させることを中心に夏休みに宿題を出しているが、学力差がついている中、宿題には工夫も必要。夏休みにしかできないことに挑戦させることも大切だ」と指摘している。

## （2）自由研究 イベントを活用

読売新聞 2015年08月15日

夏休みの宿題では、「自由研究」を課す小学校などが多い。

### 自由研究の参考になるイベントの例

日本科学未来館 (東京都江東区)	植物の戦略をゲーム形式で学ぶ体験教室など(13～17日)
はまぎん こども宇宙科学館 (横浜市磯子区)	万華鏡作りなどの科学工作教室(31日まで)
地図と測定の科学館 (茨城県つくば市)	巻き尺などを使って地図を作る測量体験教室(19日)
大阪市立科学館など (大阪市北区)	科学実験などをする「サイエンス・フェスタ」(22、23日)

「何をしよう?」。悩む子どもたちを支援する様々な取り組みもある。

### 参加者が殺到

7月21日、東京都世田谷区の区立小6年生(11)、4年生(9)の姉妹は、両親と一緒に国際展示場「東京ビッグサイト」を訪れた。民間企業や官公庁約25団体が商品や事業をテーマにした体験プログラムを提供するイベント「夏休み2015 宿題・自由研究大作戦」に参加するため。

同24日までの期間中に約1万5000人が訪れ、約30分で整理券の配布が終了するプログラムが続出するほどの人気ぶり。一家は、午前10時の開場とともに入り、食品会社のブースでスパイスやハーブを混ぜたオリジナルカレー粉を作ったり、中華料理店を展開する会社の調理担当社員にギョーザの作り方を教わったりした。

姉妹は帰宅後、カレー作りに挑戦。こうした体験をそれぞれイラストや文章でまとめ、自由研究の宿題として小学校に提出する。「大変だけど、家族みんなでいろんなことをする

### あや

のが楽しい」と小4の妹。母の彩さん(36)は「親にとって自由研究が一番大変。毎年、博物館の体験イベントなどを探して、利用しています」と話す。

イベントを主催した一般社団法人「日本能率協会」(東京)が保護者1000人に行ったアンケートでは、約6割が「夏休みの宿題・自由研究を手伝っている」と答え、「一番苦労する」宿題は自由研究が最多で、7割近かった。

### サイトも人気

インターネット上で、自由研究のテーマなどを紹介するサイトも人気だ。

学研（東京）の子ども向けサイト「学研キッズネット」内の「夏休み自由研究プロジェクト」では、500の研究テーマを掲載。科学実験など分野ごとにまとめ方も説明している。昨年7、8月の2か月間のアクセス数は約4300万件。「テーマ選びに困る人が多く、アイデア探しによく利用されている」と同社の担当者。

子どもたちが自由研究に取り組みやすいように指導する学校もある。

鹿児島市立南小では2年前から夏休み直前の授業で、自由研究の方法などを3～6年生に教える「わたしのけんきゅう」を実施。同校では自由研究の提出は任意で、それまでは半数以下の児童しか提出していなかったが、昨夏は6割に上昇した。

今年も、紙の種類によって紙飛行機の飛ぶ距離が違うなど、身の回りにあるもので簡単に自由研究ができることを教えた。7月22日には「親子科学教室」も開催。児童45人と保護者30人が参加し、ゼリー状の感触を楽しむ「スライム」を洗濯のりなどで作った。

同校では、教師同士で自由研究の方法の教え方を話し合う研修も行っている。中心になって進めてきた牧逸馬教諭（48）は、「テーマや方法を自分で考える自由研究を通して、問題解決を図る姿勢が育つ。教師も教え方を学ばないといけない」と語った。

### 宿題請負業者反対意見8割

夏休みの宿題を有料で丸ごと請け負う業者がインターネット上などで注文を受け付けていることを、7月15日付夕刊（東京本社版など）で掲載した。ニュースサイト「ヨミウリ・オンライン」で、「夏休みの宿題はあくまで、児童・生徒本人が独力でやるべきだ」という意見への賛否を聞いたところ、8月7日午後6時までに633件の意見が寄せられた。このうち、賛成の「独力でやるべきだ」は8割を超える519件。反対は「学校の宿題は全員が同じ内容で、学力の高い子にはためにならない」など114件。自由研究など宿題の一部を親が手伝うことには、「親子のコミュニケーションになる」と容認する声が目立った。

### （3）疑問の追究 科学者の道

読売新聞 2015年08月20日

夏休みの自由研究で、同じテーマを追い続ける子どもがいる。生涯の仕事につながった例もある。

千葉市立小6年生の本沢伸幸君（11）は近所の公園で捕ったショウリョウバッタ約30匹を、自宅の居間のアクリルケース5個で育てている。

同小では自由研究が必須の宿題ではないが、本沢君は2年生からバッタの研究を続けてきた。きれいな形とカッコよく跳ぶところが気に入り、「バッタ博士になりたい」と思ったのがきっかけだ。

観察を続けているうちに、バッタが脱皮する際に周囲の植物が茶色だと、緑色のショウリョウバッタが茶色になることに気づいた。昨年は、1匹が緑色からピンク色に変わった。ピンク色のバッタは珍しい。

〈なぜ、ピンク色になるのだろうか？〉

研究を始めて5年目の今年は、緑色からピンク色に変わる仕組みの解明に挑んでいる。脱皮時の環境が体色に影響すると予想し、ケースの中には、葉の赤いコルディリネや緑色のススキなど、それぞれ異なる植物を入れている。公園などで見つけた、葉の一部が赤く変色した雑草もある。

変色する様子を見逃すまいと、脱皮の気配を察すると、食事を中断して観察に没頭。「どんどん疑問が出てくる。新しい発見があって楽しい」。昨年の研究は全国コンテストで受賞し、励みにもなった。父の孝博さん（45）は「あきらめずに取り組んでいる」と目を細める。

### ◆本沢君の自由研究のテーマ

小学 2年生	草の種類とバッタの関係/ バッタのジャンプ実験
3年生	バッタの体色と身を寄せる 草の関係
4年生	バッタの色は変わるか
5年生	ショウリョウバッタの変色の 謎にせまる
6年生	ピンクのショウリョウバッタの 謎解明

父の孝博さん（45）は「あきらめず

子どもの頃の疑問の解明に挑戦し続け、科学者になった人もいる。

東邦大講師（細胞生物学）の村本哲哉さん（37）は小学6年の夏、山口県和木町の自宅近くの川で、数千匹のカニが一斉にはさみを振る光景を偶然、目撃した。

〈なぜ、はさみを振るんだろう？〉

その夏だけでは答えが見つからず、中学、高校でも研究を続けた。5秒ごとにカニの行動を記録するなどして行動パターンを把握し、日本学生科学賞を2度受賞した。

「生物のことをもっと知りたい」と、大学では生物学を専攻、生物学で有名な英国の大学でも6年間研究した。今は顕微鏡を使って細胞の中の遺伝子を調べている。

「自由研究で発見する楽しさを覚えた。学校の勉強とは違う形で、好きなものを見つけられた」と村本さん。「あの日、カニを見ていなければ、違う仕事についていた」

名古屋市科学館の主任学芸員、西本昌司さん（49）も、自由研究に打ち込んだ一人だ。中学生で岩石を分類して地域の地質を調べた。

この時期、同館には、宿題のヒントを求めて大勢の子どもたちがやってくる。「研究は謎解きだから、本来は楽しいもの。理科だけではなく、スポーツや音楽など自分が好きなことに取り組む中で感じた疑問を追究して行ってほしい」と願っている。

#### （4）塾や自治体が宿題指導

読売新聞 2015年08月21日

学年が進むにつれ、学校の夏休みの宿題も難しくなる。塾でアドバイスを受ける中学生がいる一方で、無料で支援する自治体もある。

7月下旬の夜、埼玉県羽生市の上原学習塾で、近くに住む中学1～3年生約30人が学校の宿題に黙々と取り組んだ。「これは約分でできるか考えてみて」。同塾の上原明代表（26）や講師が生徒たちの傍らで、問題の解き方を丁寧に説明した。

同塾では、7月中旬から下旬にかけて、生徒らが持ち込んだ学校の宿題を無料で指導している。3年前の開設時から続けており、塾の授業を受講していない日もやって来る生徒が多い。

市立中1年生（12）も、午前9時から夕方まで学校の部活動で汗を流した後、この期間ほぼ毎日、塾に立ち寄った。中学生になって初めての夏休みの宿題はほぼ全教科で出され、「小学生の時に比べて量も増え、難しくなった。塾では問題をどう考えて解けばいいかを助言してくれるので、内容がよく頭に入る」と話す。

「目的意識をきちんと持って、夏休みの宿題をすることで、学力向上や勉強の習慣づけにもつながる」と上原代表。ほかにも、全国展開している個別指導塾・明光義塾などで、講師が学校の宿題について無料で助言する日を設けている。

経済的な理由などで塾に通えない子どもを支援する取り組みも広がっている。家計が苦しくて十分な教育を受けられなかった子どもが大人になってからも厳しい生活に陥る「貧困の連鎖」を防ぐためだ。

厚生労働省の調査（2013年）では、1世帯あたりの平均所得金額約537万円に対して、母子家庭は約243万円。国が12年度に始めたひとり親家庭への学習支援事業は、実施する自治体が当初の3か所から、14年度には28か所に拡大した。国は今春施行された生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮世帯の子どもへの学習支援事業に対する補助も今年度始め、300自治体が導入する見通しだ。

山形県村山市は昨年度、国の事業などを活用し、ひとり親世帯の小中学生を対象に、無料の「公立塾」を2か所設置。今年度は、給食費など義務教育でかかる費用を給付している世帯の子どもにも対象を広げ、39人が登録している。

7月下旬の午後、市役所横の建物で、小2から中3までの13人が学校の夏休みの宿題に取り組んだ。山形大学の学生や元教師らが見守り、必要に応じて解説した。

夏休みのほか、土日などにも開講。これまでに、「テストの点数が15点アップした」「苦手な数学が得意になった」といった声が寄せられている。同市教育委員会学校教育課課長



補佐の片桐隆さんは「学校と連携し、学習の進み具合を知った上で教えるので効率的」と手応えを語る。

ただ、登録者数は対象者の2割程度。片桐さんは「夏休みの過ごし方で、学力に大きな違いが出る。登録し、足を運んでほしい」と呼びかけている。

#### (5) 短期留学、英語だけの生活

読売新聞 2015年08月22日

夏休みを利用して、海外で学ぶ子どもたちもいる。

相模原市の市立小6年生の男児(11)は7月下旬から10日間、オーストラリア西部のパースにあるシークレッド・ハート小学校に短期留学した。ホームステイ先の男児、キャレブ・ミルカン君(10)と一緒に通学し、午前中は日本人だけで英語のレッスンを受け、午後は同小の授業に加わった。

留学支援会社「留学ジャーナル」(東京)が2013年から行う小学生対象のツアーで、今夏は9人が参加。同社スタッフ1人も同行した。

小6の男児は、幼稚園で英会話の時間があったことをきっかけに英語が好きになり、5歳頃から英会話教室に通ってきた。「中学校で本格的に英語を学ぶ前に、英語だけの生活を経験してみたら」と母の千暁さん(40)に勧められ、「僕の英語が伝わるか試したい」と、親元を離れて飛び立った。

現地の小学校では、丸テーブルを囲んで自由に座ったり、遊びの要素を取り入れたりする授業の進め方に驚いた。知っている英単語と身ぶり手ぶりで、授業の内容は理解できた。

ホストファミリーに、日本の小学校での運動会や国内旅行の写真を見せると珍しがられ、互いの違いが話題に。戸惑ったのは食事。朝はシリアルやフルーツ、昼はサンドイッチ2個だけで、おなかがすいたが、遠慮して言い出せなかった。

「困ったこともあったけど、いろんな違いがわかって、英語で話すのが楽しくなった」と小6の男児。自信をつけて帰ってきた。

昨夏、パースに短期留学した東京都三鷹市の市立中1年生の男児(13)は、早口の英語が聞き取れず苦勞した。行き違いで朝ごはんが食べられない日もあり、「きちんと意思を伝えないといけないと実感した」。

今は、英検3級を目指して、英語で日記を書くなど勉強にも力が入る。母の香織さん(38)は、「英語を頑張る気持ちになったのも良かったが、弟の面倒を見たり家事を手伝ったりと、周りに配慮した行動ができるようになった」と喜ぶ。

中高生向けの短期留学も盛んだ。留学事業を展開するEF日本事務局(東京)は11年、中高生の留学を担当する部署を新設した。夏休みなどに短期留学を計画しており、キャンセル待ちの出るプランもある。

留学支援を行う「地球の歩き方T&E」(同)は、13年から中高生向けのツアーを企画。昨年は約100人が海外で夏を過ごした。今年は円安の影響もあって2割ほど減ったが、担当者は「グローバル志向で引き続き関心は高い」と話す。

筑波大の卯城祐司教授(英語教育)は、「子どもたちの場合、短期留学でも海外で実際に英語を使うことで、意外に通じると実感したり、学ぶ意欲が高まったりする」と指摘。とはいえ、約2週間の留学で飛行機代を含め50万円前後の費用がかかる場合が多い。「国内の授業でも英語を使う機会を増やす工夫が重要だ」と強調した。

#### (6) ボランティア 視野広げる

読売新聞 2015年08月27日

「時間に余裕のある夏休みにしかできないことを」と、ボランティアに挑戦する子どもたちもいる。

7月下旬、千葉県君津市の特別養護老人ホーム「上総園」で、地元の4高校の生徒11人が泊まりがけで介護ボランティアを行った。「まずお年寄りの近くに寄って、顔を覚えて

もらうことが大切」。介護員の鴫田達也さん（34）が説明する。入居者のほとんどが重度の要介護者だ。

「天気がよくなってきましたね」「今、おいくつですか？」

生徒たちが積極的に語りかけると、少しずつ笑顔を返してもらえるようになった。食事の時間には配膳し、自分で食べられない人にご飯やおかずを一口ずつ、スプーンで口元に運んだ。園内の宿泊施設に泊まり、2日目は清掃作業などを手伝った。

高校生の介護ボランティアは、地元の社会福祉法人・同市社会福祉協議会が27年前から毎夏、呼びかけている。県立君津青葉高校3年生（17）は昨年もこのプログラムに参加。もともと福祉に興味があったが、気さくな職員と充実した施設にひかれ、高校卒業後は上総園への就職を希望している。「介護というと重労働で、給料が安いというイメージがあるが、これからは高齢化が進み、ますます必要になる仕事。入居者にも感謝してもらえて、やりがいがある」と意気込む。

夏休みに参加できるボランティア活動は各地で増える傾向で、東京都社会福祉協議会が運営する「東京ボランティア・市民活動センター」（新宿区）によると、都内の団体が7～9月に用意したボランティアは3000プログラムを超える。

その一つ、7月末に東京都狛江市でNPO法人「E S Aアジア教育支援の会」が開いたボランティアイベントには、定員50人を超える小中高校生ら計79人が参加した。バンングラデシュの子どもたちに絵本を贈るため、「ぐりとぐら」など3種類の絵本のタイトルや文章の部分に、同国の国語・ベンガル語に翻訳された文章のシールを貼っていった。

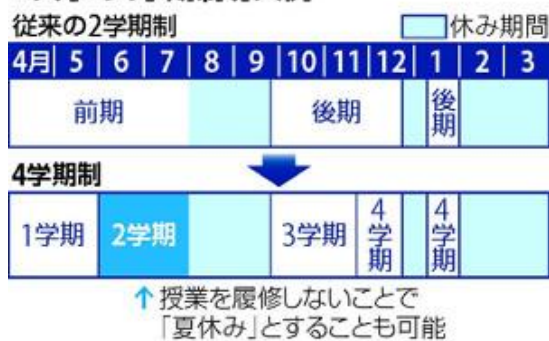
「小学校でボランティア体験の宿題が出て、ネットでこのイベントを見つけた」と言う慶応義塾幼稚舎6年生（11）は、「自分が関わった絵本を、バンングラデシュの子が実際に手にとって読んでもらえると思うとうれしい」。

高校生の中には、大学のAO・推薦入試で役立つようにと、参加する生徒もいる。都内の私立高校3年の女子生徒（18）は「9月半ばに受ける私立大のAO入試で、課外活動の項目にこのボランティアを書きたい」と語った。

ボランティア活動に詳しい麦倉哲・岩手大教授（社会学）は「動機はいろいろでも若いうちに社会経験を通じて視野を広げるのは有益で、夏休みは絶好の機会だ。その後の生き方が変わるかもしれない」と話している。

## （7）4学期制で留学しやすく

### 大学の4学期制導入例



読売新聞 2015年08月28日

海外の学生と一緒に学ぶサマープログラムを取り入れる大学が増えている。背景には、米国などの夏休みに合わせやすい4学期制の導入がある。

早稲田大学（東京都）で7月下旬、オーストリア出身のパリッサ・ハギリアン講師（44）（日本経営学）が、中国や米国などから訪れた学生らに、日本企業などで行われている「Nemawashi（根回し）」について英語で説明した。学生たちは「全員が決定に合意できる」「時間と手間の無駄」と、活発に意見を述べ合った。

早大が6月末から7月下旬まで開いた「サマーセッション」の一環。初めて開いた2014年度は海外から69人が参加し、今年度は18か国・地域から118人が参加した。早大生23人とともに授業を受け、新潟県での稲作体験などに取り組んだ。中国出身で米ブランド大2年生の孫威さん（21）は、「実際に日本の文化や雰囲気を体感できたのが刺激的だった。日本や世界の学生とも友人になれた」と喜んだ。

米国など海外の大学は6月に夏休みが始まるころが多く、外国人学生も参加できるサマープログラムが広く行われている。一方、日本の大学の夏休みは8月からが一般的で、海外の学生を受け入れるのが難しかった。早大は13年度から一部の授業で、従来の2学期制をそれぞれ2分割した4学期制を導入。6月～7月下旬の第2学期にサマーセッションなどを設定することで、海外から参加しやすくした。

サマーセッション担当の高野孝子教授は「今後は早大からの参加者をもっと増やし、海外で学ぶ入門の場としたい」と語る。

4学期制導入で、日本の学生にとっても短期留学に挑戦しやすくなった。2学期制の場合、前期の授業を全て休まなければ海外大学のサマープログラムに参加できない場合があったが、4学期制では第2学期だけを休めば「長い夏休み」を取ることが可能になったためだ。

福山市立大（広島県）では13年度から、米アラスカ大に2週間学生を派遣しており、今年は29人が7月上旬から渡米した。お茶の水女子大（東京都）では、海外大のサマープログラム参加者が13年度は11人だったが、4学期制を導入した14年度は29人、今年度は26人だった。

今年度から4学期制を取り入れた武蔵野大（東京都）は6月以降、学生17人を海外派遣した。このうち、マレーシアの大学で6月中旬から約2か月間語学研修に参加した政治経済学部3年の柏谷剛也さん（22）は中東やアフリカの学生らと一緒に学んだ。「日本にいたら知り合えなかった人たちと仲間になり、『もっと勉強しなければ』と痛感した。次は1年間の留学を目指したい」と話した。

4学期制は政府の教育再生実行会議が13年5月に提言し、導入する大学が増加している。夏休みに成長のチャンスをつかむ学生はますます増えそうだ。

（この連載は飯田達人、石川純、加藤理佐、伊藤史彦が担当しました）

## 子ども向け7項目呼び掛け…千葉県教育大綱素案 読売新聞 2015年08月28日

千葉県総合教育会議の第3回会合が26日、県庁で開かれ、教育大綱の素案が示された。

「強く美しく元気な心」を育み、社会で自立し、自らを積極的に役立てていこうとする態度や能力を育てるための基本方針を盛り込んだ。森田知事は今後、県議会の意見も踏まえ、10月に大綱を策定、公表する方針。

総合教育会議は、4月施行の改正地方教育行政法で県や市町村に設置が義務づけられた。教育の目標や施策の根本的な方針を示した県の大綱は、知事が今回の素案を基に県教育委員会と協議、調整して策定する。県の総合教育会議は、素案作成に向け、5月から議論していた。

素案は県民向けの「千葉県教育の基本方針」と、子ども向けメッセージで構成。基本方針は「家族への愛情や他人を思いやる心などを育む」「子どもたちへの愛情と熱意にあふれた質の高い教員の育成を進める」など6項目を示した。子ども向けメッセージでは「家族への愛情などを大切にしよう」「しっかりと学習に励み、社会で役立つことのできる力を身に付けよう」など7項目の呼び掛けが行われている。

## 社説：大学入試改革 思考力を判定できるテストに 読売新聞 2015年08月28日

大学入試制度は2020年度から抜本的に変わる予定だ。

不安を抱く子供たちや保護者、学校関係者も多いだろう。政府は丁寧な議論を重ね、社会全体の理解を得ていく努力が欠かせない。

文部科学省の有識者会議が、現行の大学入試センター試験に代えて導入する「大学入学希望者学力評価テスト」の制度設計に関する中間報告をまとめた。

昨年末の中央教育審議会答申を具体化したものだ。歴史であれば、年号などの暗記力を

問うのではなく、年表や資料を示して、歴史的事象が起きた原因や背景を考えさせる問題を出すという。

日本の子供たちは、知識の活用に課題があると指摘されてきた。思考力のレベルを測る新テストの方向性は妥当である。

だが、実現性を考えた場合、不透明な点は少なくない。

中間報告は、新テストに記述式問題を盛り込むよう提言した。確かに記述式は、表現力を判定する手法としては適している。

ただ、現在のマークシート方式に比べ、採点に多くの人員が必要だ。新テストは年に複数回の実施が検討されており、迅速な採点も要求される。採点基準を明確化し、公正さを担保せねばならない。

24年度以降を目途に、コンピューター画面で出題・解答する方式の導入も提案された。大量の問題を蓄積できるほか、採点を補助する機能を使えば、試験の効率化が期待できるという。

大規模試験にコンピューター方式を使用した例はない。端末の整備には巨額の費用がかかる。試験中に機器が故障すれば、混乱は避けられない。導入の長所と短所を吟味してほしい。

中間報告は、各大学に対し、新テストの成績に加え、高校の調査書、論文や集団討論などの結果を総合的に考慮して、入学者を選抜するよう求めている。

各大学が筆記テスト中心の個別試験を、労力を要する選抜方式に転換できるかが問われよう。

今回の入試改革は、高校教育の見直しと連動して進められる。

高校の次期学習指導要領は、議論を通じて答えを探究するアクティブ・ラーニングを取り入れる。新テストはこの学習の成果を見極める内容にすることも重要だ。

学力の底上げを図るため、高校2、3年生を対象にした「高校基礎学力テスト」の導入も予定される。テストが増えることに伴う生徒の負担に留意しつつ、適切な実施方法を検討したい。

## 夏休み明けの自殺防止を 都教委が指示

NHKニュース 2015年8月27日

東京都教育委員会は、夏休みの直後に児童や生徒の自殺が増える傾向にあることから、市区町村の教育委員会や都立高校に対し、最初の登校日に欠席した児童や生徒がいた場合、所在を速やかに確認するなど、自殺の防止を徹底するよう指示しました。

内閣府の「自殺対策白書」では、18歳以下の子どもの自殺について日付ごとに分析した結果、夏休み明けの9月1日が最も多く、長期の休みの直後に児童や生徒の自殺が増える傾向にあるとしています。

これについて、27日開かれた東京都教育委員会の定例会で、都の生徒指導の担当者は、今週、小中学校を所管する市区町村の教育委員会の課長や都立高校の校長を集めた会議を開き、自殺の防止を徹底するよう指示したことを説明しました。具体的には、▽最初の登校日に欠席した児童や生徒がいた場合、所在を速やかに確認することや、▽夏休みの期間中でも気になる児童や生徒については保護者と連絡を取りながら状況の把握に努めること、それに、▽夏休み明けの当面の期間は、児童や生徒の様子に変化がないか、見守るよう求めています。

都内の小中学校や高校の中には、すでに夏休みを終えているところもあり、都教育委員会は、自殺を未然に防ぐための対策を徹底することにしていきます。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行